



大阪YWCA

5 2022

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

私が理事長を務めている特定非営利活動法人いくの学園では、去る2月19日、大阪YWCAとの共催で、オンラインシンポジウム「欧州評議会イスタンブール条約に学ぶ―DV被害者支援の新しい在り方」を開催させていただきました。

2013年にDV防止法が制定されて以降、相談件数は年々増え続け、コロナ禍の最近では年間19万件に及んでいます。ところが、婦人相談所等で一時保護を受けた人は、2015年以降減少し、2018年度は7588人。また、かつては3000件を超えていた裁判所による保護命令の発令件数も1800件と減少しており、多くの被害者が適切な支援につながっていない現状があります。

その背景には、相談から一時保護へのつながり、一時保護の枠組や生活上の制約、保護命令の要件の厳しさなどの問題もありますが、被害者が支援につながらない要因の一つとして、日本では被害者に提供される支援策が、「加害者

DV被害者支援の新しい在り方

弁護士 雪田 樹理



から遠くに離れて逃げる」ことを前提としていることがあります。

DV被害者も子どもも、一時保護を受けるためには、仕事や保育園・学校等のいまの生活を捨てて、親族や友人等との通信もしばらく断ち切る生活を余儀なくされている現実があります。さらに一時保護を抜けた後も、加害者は何も失わずに変わらない生活をしているのに、被害者はいつまでも隠れて生活しなければなりません。という理不尽さがあります。

遠くに逃げずとも、現在の生活を続けながら、被害を受けることなく生活することはできないのか。これが多くの被害者の願いです。

2011年に欧州評議会で開催された「女性に対する暴力およびドメスティック・バイオレンスの防止およびこれとの闘いに関する条約」(通称イスタンブール条約)では、暴力を受けた女性とその子どもに、「その場を離れる権利(シェルターや新たな住居へ移動する権利)および住

居にとどまる権利(緊急の接近禁止命令等)」を保障して、被害者の一人ひとりが自由に加害者のもとを離れるかどうかを選択する権利や保護を受ける権利を保障しています。世界的には、「離れる」だけではなく、「とどまる」権利を保障するために、加害者対策を充実させた包括的総合的なDV被害者の支援策へと転換が図られてきています。

日本でも世界の先進例に学んで、「逃げなくても安全」という選択のできる日を実現したいものです。

ゆきた じゅり

弁護士。1990年、大阪弁護士会登録。

2002年 女性共同法律事務所開設。

現在、特定非営利活動法人いくの学園理事長、特定非営利活動法人性暴力支援センター・大阪SACHICO理事、認定NPO法人ヒューマンライツ・ナウ理事

大阪YWCA2021年度インターンシッププログラム

女性のためのリーダーシップトレーニング



3月20日(日)、大阪YWCAインターンシッププログラムの集大成として、インターン生が企画したトークイベント「私たちの言葉には力がある〜つるむ〜」が開催され、同日修了式が行われました。10カ月間をふりかえってインターン生は、「自分を肯定できる、自信を得られる機会になった」 「日本に蔓延(はびこ)る性別についての問題意識と怒りを持ち、それを力により良くしていこうとする仲間の姿勢は、私自身もアクションを起こしていくための大きな原動力になった」 「多くの学びと素敵な方々との出会いが与えられ、誰かとつるむ〜こと



に取り組んだからこそ、終了後も熱が冷めることなく、より良い自分や社会を思い描くことができている」と話してくれました。そしてこの経験が今後の人生にどう活きると思うか伺いました。

矢野さん…プログラム期間中、私が住む市の男女共同参画プラン改訂に向けてのパブリックコメント募集があり、提出した意見の一つに、NWECフォーラムでのワークショップの企画を通して学んだ、包括的性教育のことを入れました。たくさん得た学びを、今度は周囲の人たちや地域に活かしていきたい、そんなエネルギーを育むことが

できました。下津さん…4月から男女共同参画センターでの就職が決まったので、女性のエンパワメントに更に力を入れていきたいです。また、NWECフォーラムでの「赤ちゃんはどうやってできるの?と子どもに聞かれたら」というワークショップは、自分が将来子どもを持つという選択をした際に、上手く活かせたらいいなと思っています。

森さん…再び自分の中にあった情熱や自信を取り戻すことができたことは、今後も他者と関わり、その間に生まれる素晴らしい変化を追い求めるには十分すぎる経験でした。そして、人間には他者の痛み

に「共感する力」があるからこそ、これからは誰かに寄り添える人間になりたいと強く思われます。こうした小さな変化や決意は私自身の人生だけでなく、社会と他者にも良い変化を与えていけると信じています。

2022年度もインターンシッププログラムを実施します。詳細は大阪YWCAのホームページ等をご覧ください。

(プログラム)

6月	公開プログラム「日常の中のミソジニー」 講師:小川たまか(ジャーナリスト)
7月	オリエンテーション
8月	女性の権利拡大の歴史
9月	性と生殖に関する健康と権利
10月	キャリア形成とジェンダー
11月	NWECフォーラムのリハーサル
12月	NWECフォーラム出展 「私たちの声には力がある ～性教育について考えよう～」
1月	セクシュアリティの多様性とジェンダー
2月	ジェンダーに基づく暴力
3月	インターン生企画 トークイベント 「私たちの言葉には力がある ～"つるむ"ことから始めよう～」

日常生の中でのモヤモヤ
疑問や共感の思いを共有した機会を自分たちで持つ
あいを形にする
感じを共有する
モヤモヤを共有する
あいを形にする



子育てで思うこと

子どもを育てながら復帰して早2か月。コロナの蔓延もあり、育児と仕事の両立は改めて大変だと痛感させられている。最近よく思うのは、コロナの影響もあり、時代の変化がより速くなっていること。オンライン化はどんどん進み、今まで当たり前だったことも当たり前ではなくなり、未来もなかなか見通せない。正解のない時代といわれるが、これからは生きていく子どもたちを思うと少し不安を感じる時がある。しかし、先日読んだ本の中にこんな言葉があった。「親はいつの時代でも不安なもの。新しい時代を担う子どもたちは予め時代に必要な力を持って生まれてくる。子どもの可能性を信じて見守ってほしい」と。そうかもしれない。必要以上に恐れず、信じて見守りながら子どもたちの成長に関わっていきたくと思った。

(職員 吉本 沙矢香)

第105回

大阪YWCA定期会員集会報告

2022年3月5日(土) 10時〜12時半、本館(梅田)208・209教室にて、会員数246名の過半数を超える141名からの書面決議回答を得て、定期会員集会を開催しました。今回の標語は、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」(マタイによる福音書22章39節より)。

コロナウィルスによる「まん延等防止措置」のため、対面とオンラインとを併用した開催となりました。対面出席は32名、オンライン参加は15名、対面傍聴者が1名でした。開会挨拶、日本YWCA会長(藤谷佐斗子さん)メッセージ「希望にむかって進むために」朗読、開会礼拝と続き、礼拝の奨励は、沖縄YWCA会員であり普天間バプテスト教会協力牧師の國分美生さんがスクリーン上からお話してくださいました。続く議事Iは、2020年度決算、2021年度事業報告、2021年度会計現況報告、議事IIでは、2022年度事業計画案・予算案を提示、次期運営委員・指名委員選挙結果報告と、それぞれに対する書面決議による採決を行いました。議事終了後は、社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会 新理事長 井上隆晶さん(日本基督教団都島教会牧師)と、特定非営利活動法人大阪被害者支援アドボカシーセンター 堀河昌子さん(大阪YWCA会員)からの一言アピールがあり、新指名委員・新運営委員・任期中運営委員の紹介、任期中運営委員への会長からの感謝、閉会祈祷、最後は職員紹介で閉会となりました。



停滞する経済の影響を大きく受けて、決算は非常に厳しい状況で、予算も決して楽観できる数字ではありませんでしたが、私たちが職員のみなさんと知恵を出し合い、与えられた苦難の時を乗り越えたいと思います。(会員 津戸 真弓)



ダブルスタンダード ウクライナと他の紛争との二重基準

ロシアによるウクライナ侵攻の悲惨な状況が、連日連夜報道されている。それとともに各国のウクライナへの支援・ロシアへの制裁、著名人によるウクライナ支持・ロシア非難の表明や一般市民による寄付や支援のニュースも続々と伝えられている。日本でもウクライナ大使館に20万人から50億円の寄付が寄せられた。しかし誰もが同じ感情を抱くとは限らない。サッカーのパレスチナ選手であるモハメド・ラシードは試合の前に、ウクライナ危機に抗議する「戦争反対」の横断幕の前にチームメイトとともに立つことを拒否した。彼は「私はあらゆる戦争に反対だしあらゆる暴力に反対だ。しかしパレスチナで長年にわたって

おこっている戦争について同じことをしようとした時、国際サッカー連盟は規則に反するからできないと言った。」パレスチナ、シリア、レバノン、イエメン、イラクでの戦争が起こった時、なぜ僕らは意見を表明できないのか。」政治とスポーツは別だと散々聞かされてきたが今回は別だ。2015年の難民危機の際、ポーランドは徹底的に難民受け入れを拒んだが、現在はウクライナからの難民を最も多く受け入れている。日本も避難したウクライナ国民の積極的受け入れを表明した。同じ基準を、国籍や人種、宗教に関係なくすべての難民や戦火の下にある人々へ適用されることを願う。(会員 小澤 裕子)

わたしのイチオシ!

「着物」

大畑 知子

着物は、長い歴史の中で受け継がれ育まれてきた世界に誇れる「伝統文化」です。

着物は、美しい、華やかだけではなく、四季のある日本の気候風土にも適しています。

国際語は、「kimono」として世界にも発信しています。



日本は、明治時代に西洋の文化が入り、洋服が主流となりました。しかしそれまでは、着物をきていたのですよね。

卒業式には、色無地の着物と本袋帯にしました。着物を着ると姿勢がよくなります。ひとり一人に卒業証書を授与しました。

聖書の言葉

どうか、平和の主御自身が、いついかなる場合にも、あなたがたに平和をお与えくださるよう。

(テサロニケの信徒への手紙一 3章16節)

Advertisement for FUJIMI 藤木工務店. Includes logo, slogan '未来へ—安心を創る', and contact information for Osaka branches.

Advertisement for オフスインテリア (Office Interior). Includes logo, slogan 'オフィスの移転・改装 / ショップの新装改装', and contact information for Osaka and Tokyo offices.

待ちに待った入国！
留学生の声

留学生の新規入国が段階的に緩和され、長い間、国で待機していた留学生が少しずつ入国しています。2年間待ってようやく入国した、ミャンマーからの留学生にインタビューしました。

Q なかなか来日ができませんでした。その間はどんな気持ちでしたか？

A 2021年10月からオンラインで授業を受け始めました。2021年11月に入国緩和の発表があ

り、喜んでいたので1ヵ月後に入国停止になり、本当にがっかりしました。

Q 対面で授業を受けてみての感想を聞かせて下さい。

A 国ではインターネットの環境も悪く、オンライン授業はとても不便でした。知らないことばが出てきても、誰にも聞くことができませんでした。今は先生や友達に質問をすることが出来ます。

Q 来日して、日本の印象はどうですか？

A ミャンマーでは内戦が続いているため、夜出歩くことは本当に危ないです。でも日本は治安が良く、

安心して過ごすことができます。

介護を学ぶために留学した学生たち。介護の仕事をしながら、介護福祉士合格を目指します。将来は、両親に恩返ししたいと語ってくれました。

(職員 藤田 実余子)



4月に入学した留学生たち



BACKWOODS MOUNTAINEERS
チャリティーコンサート

3月5日、定期会員集会の日の午後、バックウッズマウンテンアーズのチャリティーコンサートが開催されました。新型コロナウイルス感染予防対策のため長らく自粛していたコンサート活動の、本当に久しぶりの再開です。3階ホールには心待ちにしていたお客さんがたくさん集まりました。

バックウッズは、陽気なおじさま5人組のブルーグラスバンドです。テネシーワルツやカントリーロードなど私たちが知っている曲も交え、バングジョーやギター、フィドル

(バイオリン) による軽快な音楽が私たちを楽しませてくれました。曲と曲の間にはブラックジャコウの小唄が私たちに笑わせてくれました。メンバー一人ひとりが本当に音楽を楽しんでる姿が私たちに伝わり、観客の手拍子も絶えない、ステージと客席が一体となったコンサートでした。

最後にコロナ禍において、感染対策に取り組みコンサートを実施してくださった、千里委員会および財務委員会のみなさまに感謝したいと思います。(会員 平井 佐津紀)

ご協力ありがとうございました

【22/2/1~3/31】敬称略順不同

■賛助費

- 栗本丹志貴 壇上 忠子 原口早和子 松田真理子 宮澤 玲子 八木みゆき 安原みゆき 吉田佳代子 吉田 耕平

■寄付

梅田 重光 (粟津 純子)

■点字

点字サークルシックスポイント

■千里委員会

瀧本 政子

■女性エンパワメント推進チーム

- 秋田 美空 清水 康子 早川菜津美 本郷千佳子

■その他

小八木晴代 瀧本 政子 片山 隼亮

■クリスマス献金

日本基督教団大阪教会

日本基督教団希望ヶ丘教会

■会員維持費

柚本 紀子 中村 友美

■募金

22口 570、179円

2021年度の新入会員

- ☆会員 鈴鹿 絹代 額額 美香 飯綱 萌 森澤 一充 ☆会友 錦織 一郎



お詫言と訂正

3/4月号4面「ご協力ありがとうございました」をご覧ください。お名前間違いがありました。お詫言して訂正いたします。

(誤) 加代 (正) 辻 加代

(誤) 良 清子 (正) 葛良 清子

2月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント 2/27開学Y「卒業研究シェアの会」▼東日本大震災被災者支援 3/20街頭募金

【協議】①運営委員のための ワークショップ準備

②2022年度の委員会構成について

3月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント推進チーム 来年度から女性エンパワメント部として活動 ▼梅田会員部 3/23気まぐれバザー売り尽くしセール ▼千里委員会 「アドラーdeママズカフェ」を来年度から「ママズカフェ」として活動

【協議】①2022年度の委員会構成 ※平和環境部、子ども部→グループとして梅田会員部委員会に入る

※奨学金→委員会としては

終結

4月運営委員会報告

【報告】▼子ども部 3/27 「わくわく大運動会」

▼女性エンパワメント部 4/9くれよん月例会スタート ▼千里委員会 「いこの集い」「カフェ茶話茶話」活動終了 ▼奨学金 奨学金委員会とは解散し、事務は学校ランチスーパは「グループページ」として梅田委員会で活動を継続

【協議】①世界YWCA日集

会について

2022年度 運営委員会役員決定

- 会長 小澤 裕子 副会長 大畑 知子 津戸 真弓 書記 辻川さとみ 会計 横内いづみ